



[公園入り口1](#)



[公園入り口2](#)

三島市南本町にあります「梅花藻の里」は、三島梅花藻を育てている公園です。小さな公園ですが豊富な湧水を利用して、三島梅花藻を育成しています。日当たりが良く、冷たい清流でしか育たないので水質のパロメーターとも言われ、日常の手入れをしないと枯れてしまいます。現在、NPO法人グラウンドワーク三島をはじめ多くのボランティアさんにより地道な作業が続けられています(写真上左右)。



[梅花藻の里1](#)



[梅花藻の里2](#)

そんな公園の片すみに…大きな桜の木が…そして満開です(写真上右)。

「ヒマラヤザクラ」です(令和2年11月25水曜日、13:30頃撮影)。

※ヒマラヤザクラ(ヒマラヤ桜 学名:prunus cerasoides)

バラ科サクラ属の樹木。桜の野生種の一つ。英語圏ではWild Himalayan Cherryとも呼ばれる。東アジアに見られる落葉性の樹木です。ヒマラヤが起源と考えられており、インドのヒマーチャル・プラデーシュから中国南西部、ビルマなどに見られます。海拔1,200mから2,400mの高山の森に生える。またサクラ自体もヒマラヤ近辺が原産と考えられています。



[ヒマラヤ桜1](#)



[ヒマラヤ桜2](#)

ヒマラヤザクラの特徴は！

ヒマラヤザクラは高木であり、大きなものでは30m程度に育ちます。花は11月から12月の冬に咲きます。花は雌雄両性であり、桃色から白色の色をしています。

滑らかな樹皮をしており、卵形の実を着け、実は黄色から赤に変わります。

花がない時は、つややかな樹皮と、樹木の高さ、ギザギザの葉によって特徴付けられます。



[ヒマラヤ桜3](#)



[ヒマラヤ桜4](#)

日本でのヒマラヤザクラは！

日本には、ネパール王室のビレンドラ元国王から贈られたものが熱海市の静岡県立熱海高等学校の法面に植樹されています。これは、1967年(昭和42年)東京大学に留学していたビレンドラ皇太子(当時)に熱海の植物友の会が桜と梅の種を献上し、その返礼としてヒマラヤザクラの種900粒が贈られました。その種から育った原木が、今も熱海高等学校に有ります。

梅花藻の里には…50年前、熱海高等学校のヒマラヤザクラの枝が接ぎ木されました。

近年は、ほとんど花を付けない年もありましたが、間引きや消毒などを施し、昨年から美しい花を見られるようになりました(写真上左右)。



[ヒマラヤ桜5](#)



[ヒマラヤ桜6](#)

桜は日本の国花…しかし原産地は！

日本をはじめ温帯各地に自生する桜はたいへん種類が多い。近年、日本、韓国、中国など、温帯の各国に自生する桜のDNAを解析して明らかになった事実は、桜の原産国はネパールの丘陵地帯でした。

ネパールは、ヒマラヤ山脈の8,000m峰を14座、7,000m峰を250座も有し、氷河や永久凍土がある事から一般に極寒の国とされています。

しかし実は、ネパールの国土の大部分は高知でも低地でもない、標高500m～2,000mの丘陵地帯で気候は主に温帯に属して、日本よりやや暖かく、温帯といっても亜熱帯に近く、沖縄本島とほぼ同じ緯度に位置します。



[ヒマラヤ桜7](#)



[ヒマラヤ桜8](#)

ヒマラヤザクラのUP写真です(写真上左右)。見頃は12月中旬まで続く見通しです。また周辺には河津桜やミシマザクラも植えられ、ヒマラヤザクラの開花をスタートに半年ほど桜を楽しめそうです。



[梅花藻の里3](#)



[梅花藻の里4](#)

梅花藻の里、公園内では三島梅花藻を間近で見られるように遊歩道が設置されています。また池内にはカワムツ・アブラハヤが優雅に泳いでいる姿も観賞できます。

「梅花藻の里」へのアクセスなど

- ・所在地：三島市南本町7
- ・駐車場：なし
- ・アクセス・三島駅から徒歩約20分
 - ・三島田町駅から徒歩5分
- ・問い合わせ：三島市商工観光課 TEL：055-983-2656

取材：中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章